

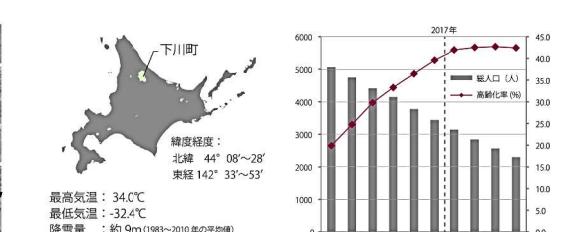
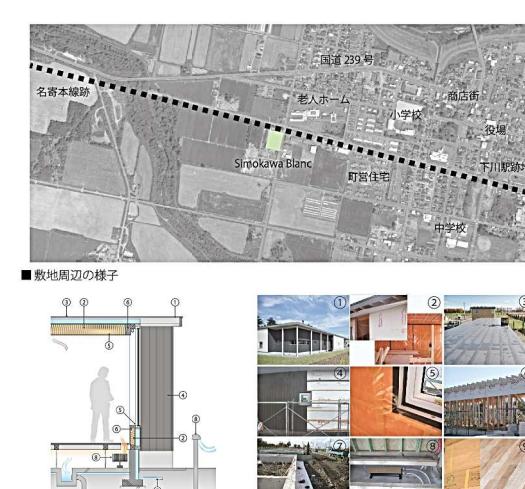
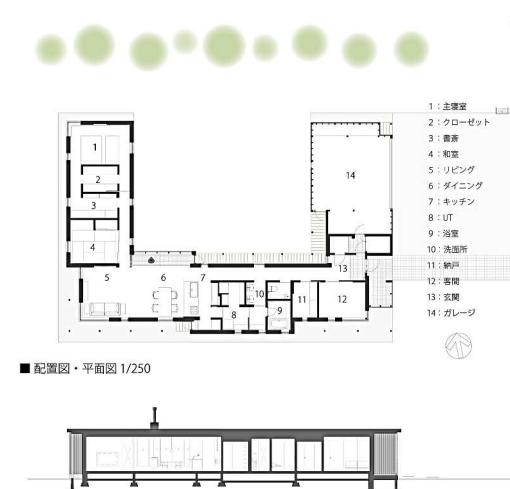
道北のまち、下川町の市街地端部に建つ木造平屋の住宅である。下川町は面積の90%を森林に覆われ、夏冬の寒暖差が60度を超える地域である。

250坪の敷地は、廃線となった名寄本線の鉄道防風林に寄り添う様に広がる。郷土愛に厚い施主の思いや自然環境から、防風林を手掛けたりに下川町の気候風土や地域文化に馴染んだ住宅をつくりたいと考えた。

かつての産業を支えた遺構への敬意を込め、防風林の連続する風景と呼応するよう水平への広がりを意識した。さらに、防風林に寄り添い、しっかりと根付いた暮らしを実現したいという想いから、住宅を「コ」の字配置し、防風林と住宅で緩い囲み型を形作っている。この配置により、市街地でありながら木立の中で暮らすような自然との一体感を生み、近隣への適度な距離感と中庭への開放感の両立を実現している。

地域住宅のモデルとすべく主要構造部には全て地域材を採用、内外装には下川のカラマツ材を積極的に活用している。厳しい冬の寒さに備えてQ値1.3、C値0.5を確保。暖房には薪ストーブを併用し、森林資源の活用とエネルギーの地域内循環を意識している。また、床下空間を活用した床下換気暖房方式を採用し、快適で温度むらの少ない室内環境を実現した。

この住宅は「森とイエ」プロジェクトの第1作目にあたる。プロジェクトの立ち上げから5年、試行錯誤の中、「人」「気候風土」「素材」が織り、「シモカワ」ならではの住宅が出来たと考えている。



※「森とイエ」プロジェクトとは
人口減少、高齢化を迎える下川町において、地域の工務店3社と札幌の4名の建築家が、地域住宅づくりを通して、森林資源の循環、地域活性化、持続可能な地域社会の実現に向けて取り組む協働プロジェクトである。
理念に賛同した施主は、建築家と工務店を自由に選べる3つのコース（建築家コース、工務店コース、モデルプラン）から、自分にあったコースを選択し、地域材の活用、性能基準（断熱・気密）、デザインコードの3つのルールを守り、家づくりを進めることができる。

プロジェクトでは「家づくり講座」や「現場見学会」「ワークショップ」などを継続的に展開しており、実績は竣工5件、工事中1件となっている。